



開催趣旨

神戸大学大学院人文学研究科
神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター

(Citation)

歴史文化をめぐる地域連携協議会予稿集, 18:1-2

(Issue Date)

2020-02-02

(Resource Type)

conference object

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81012133>



開 催 趣 旨

このたびは、ご多忙のなか第18回歴史文化をめぐる地域連携協議会にご参加いただき誠にありがとうございます。

1995年1月17日、兵庫県南部地震の発生により引き起こされた、阪神・淡路大震災から今年で25年を迎えます。地震や火災によって、建物は倒壊。交通網やライフラインも遮断され、多くの人命が失われました。また、人や建物の被害のみならず、地域に残された数多の歴史資料も被災しました。このとき始まった、被災した歴史資料の救出活動を契機に、2002年、人文学研究科地域連携センターは発足しました。被災資料を救出する活動は、その後様々な形で全国に展開し、現在も各地の被災地で活動が続けられています。

震災によって新たな資料も生まれました。震災に関連して作成された公文書をはじめとして、地震発生時に止まった時計、避難所で配られたチラシ、被災地を写した写真などの、いわゆる震災資料です。こうした資料の保全活動は、25年の歳月を経てなお、継続して行われています。あわせて、聞き取りを通じて、発災時の様子や復興への取り組みなど、人々の記憶を記録する活動も行われています。

この間、街の復興は進んできました。その一方で、25年という歳月の中で、記憶の風化、震災資料の保管やこれをどう活用していくかといった問題も生まれてきています。今後、さらに年月を重ねる中で、阪神・淡路大震災を通して生まれた記憶や記録を、どのように後世に伝えていくかが課題となっています。

一方、発災時ほど急激でないにせよ、近年日本の諸地域でも地域の記憶や記録を継承していくことが困難な状況が発生しています。兵庫県下においても過疎化や少子高齢化が進み、地域に残された歴史資料を引き継ぐことができない、伝統芸能を継承していけないという地域が数多く存在します。こうした事例は、山間部の過疎地域に限らず、都市部近郊の、いわゆるオールドニュータウンでも起こっています。同様の問題を抱える地域は、今後も増えていくと予想されます。地域に残された歴史遺産を次の世代に引き継ぐことが容易でなくなりつつある今日、誰が、どのように、これらを守り、受け継いでいくのが課題となっています。

こうした状況を踏まえつつ、今回の協議会では「地域歴史遺産を未来につなぐために」をテーマとしました。阪神・淡路大震災以降、災害の記憶と記録を守り、継承してきた25年間の活動や、過疎化が進む中で、様々な工夫をこらしながら地域の歴史を後世に引き継いでいこうとする香美町の取り組み、子どもたちと地域の歴史を調べる香寺町の取り組みに学びつつ、地域歴史遺産をより良い形で未来につないでいくための方策について、皆さまと議論していきたいと思います。

本年、文学部は70周年を迎えますが、本センターは地域と連携した教育・研究において重要な役割を担ってきました。私たちはこの協議会自体が、多くの参加者の間でつながりが生み出される〈場〉となることを願っています。そのため協議会の合間にできる限り時間をとり、各団体の方々が交流できるコーナーやポスターセッションの場を設けたいと考えています。多くの方々に活動の成果物や書籍をお持ち寄りいただき、展示・交流していただければ幸いです。

2020（令和2）年2月2日

神戸大学大学院人文学研究科
神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター